

環境福祉経済委員会 市内行政視察報告について

別紙のとおり、現地視察を行い、視察報告をとりまとめましたので報告します。

平成27年10月30日

光市議会議長 中村賢道 様

光市議会環境福祉経済委員会

委員長	大樂俊明
副委員長	萬谷竹彦
委員	磯部登志恵
委員	加賀美允彦
委員	木村則夫
委員	土橋啓義
委員	中村賢道
委員	畠堀計之
委員	森戸芳史
随 行	大濱貴之

記

1. 現地視察年月日 平成27年10月23日（金）
2. 視察先
 - ①室積松原海岸
 - ②光市栽培漁業センター
 - ③塩田地区
 - ④東荷一ノ瀬線

市内行政視察報告書

環境福祉経済委員会副委員長 萬谷竹彦

平成27年10月23日

◎光漁港海岸保全施設整備事業（高潮対策）

室積海岸 農山漁村地域整備交付金事業

光漁港海岸の室積海岸を高潮、波浪等による被害から防護するため、自然海岸として構造物を極力造らないという基本方針のもと、室積海岸に13万5千 m^3 の養浜を施工（島田川河口から砂を入れた）、松原地区に延長800mの高潮堤防を整備、戸仲漁港に140m防砂突堤を整備の3つの対策を進めていく事業。戸仲漁港の突堤の整備は平成23年に完了し、今回は主に松原地区の高潮堤防を視察。波のうち上がる高さを計算し、堤防を造っていく計画で、現在は6mほど施工。中はコンクリートで造られ、そのコンクリートを目隠しするように、木の造形物で覆っている。景観を配慮してのこと。800m施工するには、まだ時間がかかると思われるが、近隣住民の方々のためにも、早期完成を望むところである。



◎光市栽培漁業センター（光分場）

公益社団法人 山口県光・熊毛地区栽培漁業協会（1市3町7県漁協支店）では、上関の栽培漁業センターを「本場」、光の栽培漁業センターを「分場」と位置付けし、平成8年度に「分場」の施設を整備し、光熊毛地区の水産資源管理と漁業振興を目的に、稚魚等の中間育成によるつくり育てる漁業を推進していた。しかしながら、光分場は、平成16年の台風による水槽飛散事故が発生し、その後は、アワビのみの中間育成になっており、水槽跡地の土地利用が大きな課題となっている。平成26年のアワビの実績は、15mmのものを30mmまで育成し、約41000個（生存率82.5%）を光熊毛地区の県漁協7支店の各地先海域に放流した。平成27年度も、50000個を中間育成し

ている。水産資源の安定をもとに造られた施設だが、現在はアワビだけになっており、それ以外の生物の中間育成も模索中との事。水槽の跡地利用も含めて、これからの取り組みに期待したいと思う。



◎やまぐち森林づくり県民税関連事業

地域が育む豊かな森林づくり推進事業（中山間地域対策）

有害鳥獣から農業被害防止と農地の生産額を増加するため、塩田地区において、イノシシのえさ場や隠れ家となっている放置竹林や雑木等を長さ約400m、奥いき約20～30m伐採し、約1haの緩衝帯をつくる事業。やまぐち森林づくり県民税は、森林の多面的な機能が持続的に発揮されるよう森林の整備に関する費用に充てるため、平成17年度から平成26年度までの2期10年間、実施された取り組み。今年度から平成31年度までを3期目として、新たに市町が実施主体の「地域が育む豊かな森林づくり推進事業」が創設され、集落周辺の里山を一体的に見通しの良い森林へ誘導する取り組みを支援するための「中山間地域対策」であり、県補助金10/10で実施。農業を営む方々にとって、死活問題となる有害鳥獣。これからの取り組みにも期待し、効果が出ることを願う次第である。



◎県道 東荷一之瀬線

川沿いであり、もともと幅員も狭いこと、雑草が茂るとより道が狭く感じ、また樹木が覆い繁ると街灯等も隠してしまうため、以前より、地元はもとより市内各地から「何とかならないか」という要望が出ている道路を改めて視察。県道であるので、市からも要望を出しているとの説明を受けた。県も優先順位等あるとは思われるが、伊藤博文記念館の入り口の1つの道路でもあるので、様々な形で粘り強く要望していかなければと思う。